

吉本新喜劇のチャーリー浜さんが旅立たれました。プライベートでお話しする機会はほとんどありませんでしたが、舞台上や楽屋でさまざまなことを教えていただいた大先輩です。



吉本新喜劇では、持ちギャグのある先輩がボケ、それに合わせて舞台の全員がコケるのが定番です。

⑭ 最後の舞台



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

ある日、「ごめんください」と登場するはずのチャーリーさんが、わざと「ごめんください」と普通の言葉で登場しました。それに気づかず、私1人だけがコケることになった。すると、「君は何でコケてるの?」「他の人はコケてないぞ?」「どう聞かえたの?」など、チャーリーさんが畳み掛け、大きな笑いが生まれました。

「ごめんください」と登場するはずのチャーリーさんが、わざと「ごめんください」と普通の言葉で登場しました。それに気づかず、私1人だけがコケることになった。すると、「君は何でコケてるの?」「他の人はコケてないぞ?」「どう聞かえたの?」など、チャーリーさんが畳み掛け、大きな笑いが生まれました。

「ごめんください」と登場するはずのチャーリーさんが、わざと「ごめんください」と普通の言葉で登場しました。それに気づかず、私1人だけがコケることになった。すると、「君は何でコケてるの?」「他の人はコケてないぞ?」「どう聞かえたの?」など、チャーリーさんが畳み掛け、大きな笑いが生まれました。



「ごめんください」と登場するはずのチャーリーさんが、わざと「ごめんください」と普通の言葉で登場しました。それに気づかず、私1人だけがコケることになった。すると、「君は何でコケてるの?」「他の人はコケてないぞ?」「どう聞かえたの?」など、チャーリーさんが畳み掛け、大きな笑いが生まれました。

「ごめんください」と登場するはずのチャーリーさんが、わざと「ごめんください」と普通の言葉で登場しました。それに気づかず、私1人だけがコケることになった。すると、「君は何でコケてるの?」「他の人はコケてないぞ?」「どう聞かえたの?」など、チャーリーさんが畳み掛け、大きな笑いが生まれました。

チャーリー浜さんに救われた

「君、辞めるんか?」そんな中、チャーリーさんから突然の質問。「はい、辞めて小学校の先生になります」。そう答えると、「辞めるのは偉い! ご褒美や!」と言いつつ、お小遣いを渡してくれました。

⑭ 最後の舞台



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

ある日、「ごめんください」と登場するはずのチャーリーさんが、わざと「ごめんください」と普通の言葉で登場しました。それに気づかず、私1人だけがコケることになった。すると、「君は何でコケてるの?」「他の人はコケてないぞ?」「どう聞かえたの?」など、チャーリーさんが畳み掛け、大きな笑いが生まれました。

「ごめんください」と登場するはずのチャーリーさんが、わざと「ごめんください」と普通の言葉で登場しました。それに気づかず、私1人だけがコケることになった。すると、「君は何でコケてるの?」「他の人はコケてないぞ?」「どう聞かえたの?」など、チャーリーさんが畳み掛け、大きな笑いが生まれました。

「ごめんください」と登場するはずのチャーリーさんが、わざと「ごめんください」と普通の言葉で登場しました。それに気づかず、私1人だけがコケることになった。すると、「君は何でコケてるの?」「他の人はコケてないぞ?」「どう聞かえたの?」など、チャーリーさんが畳み掛け、大きな笑いが生まれました。

「ごめんください」と登場するはずのチャーリーさんが、わざと「ごめんください」と普通の言葉で登場しました。それに気づかず、私1人だけがコケることになった。すると、「君は何でコケてるの?」「他の人はコケてないぞ?」「どう聞かえたの?」など、チャーリーさんが畳み掛け、大きな笑いが生まれました。

「ごめんください」と登場するはずのチャーリーさんが、わざと「ごめんください」と普通の言葉で登場しました。それに気づかず、私1人だけがコケることになった。すると、「君は何でコケてるの?」「他の人はコケてないぞ?」「どう聞かえたの?」など、チャーリーさんが畳み掛け、大きな笑いが生まれました。